



Jリート市場の現状と見通し：2026年1月（月中版）

2026年1月5日～15日

◆ 最近の動向

1月前半のJリート市場は、年初の米半導体株上昇の流れを受け、大発会から株式市場が大幅上昇する中、小幅上昇で始まりました。その後、中国が日本向けの軍民両用品目の輸出規制強化を発表したこと、株式市場は反落したものの、Jリート市場は長期金利が低下したことが支えとなり緩やかに上昇しました。中旬には、衆議院の解散報道を受け、株高、円安、債券安の高市トレードが再開し、株式市場が再び大幅上昇する中、Jリート市場も連れ高となり、節目となる東証REIT指数（配当なし）2,050ポイントを回復しました。

今後は日米中央銀行の金融政策や長期金利の動向、衆院選の選挙情勢をめぐる報道を確認しつつ、方向感を見定める展開を想定しています。1月の日銀会合では政策金利の据え置きが見込まれるもの、衆院選の選挙情勢で与党優勢となった場合、高市政権の積極財政による財政悪化懸念に拍車がかかり、長期金利が一段と上昇する可能性があります。また、日中関係悪化によるインバウンドの減少懸念もJリート市場の下落圧力となりそうです。とはいえ、Jリート最大のセクターであるオフィスを含め国内の不動産市況は良好です。値下がりした局面では下値を拾う買いや4%台半ばの分配金利回りに着目した買いが入ることが期待されることから、下値も限定的になると見込んでいます。

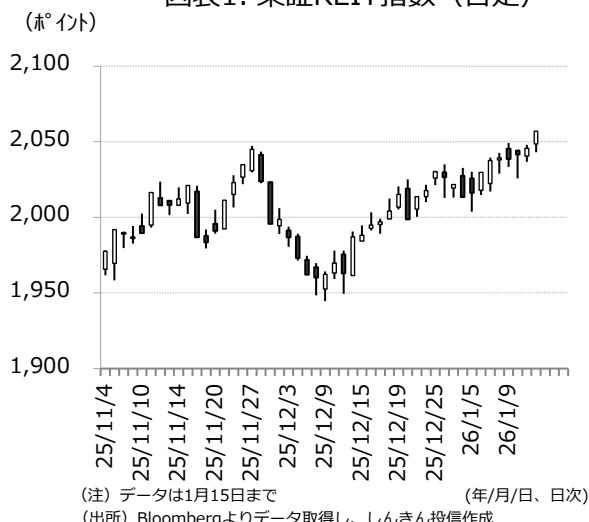
◆ 12月時点の東京都心のオフィス空室率、賃料

中小規模の解約が見られたものの、竣工1年未満のビルに大規模な成約が進んだことなどから、空室率は2.22%と前月から0.22ポイント低下。賃料は2万1,409円/坪、前月比0.47%（101円）上昇。

◆ 12月のリート（東証）投資部門別売買状況

事業法人、投信は買い越し継続。個人は売り越し継続、海外投資家、銀行は売り越しに転換。

図表1. 東証REIT指数（日足）



図表2. 東証REIT指数、長期金利



図表3. マーケット動向

	2024/ 12/30	2025/ 11/28	2025/ 12/30	2026/ 1/15	騰落率（利回り、金利は変化幅）		
					年初来	12月	1月
東証REIT指数 （配当なし）	1,652.94	2,023.80	2,013.50	2,057.09	2.16%	-0.51%	2.16%
（配当込み）	4,205.64	5,377.31	5,378.09	5,494.52	2.16%	0.01%	2.16%
東証REITオフィス指数	1,601.42	2,014.96	1,976.89	2,015.13	1.93%	-1.89%	1.93%
東証REIT商業・物流等指数	2,022.25	2,444.70	2,441.65	2,496.84	2.26%	-0.12%	2.26%
東証REIT住宅指数	2,717.43	3,153.30	3,226.10	3,306.39	2.49%	2.31%	2.49%
TOPIX （配当なし）	2,784.92	3,378.44	3,408.97	3,668.98	7.63%	0.90%	7.63%
（配当込み）	4,791.22	5,949.55	6,010.98	6,469.45	7.63%	1.03%	7.63%
予想分配金利回り（東証上場REIT、%）	5.175	4.477	4.571	4.472	-0.099	0.094	-0.099
東証プロライム配当利回り（%）	2.318	2.190	2.169	2.022	-0.147	-0.020	-0.147
新発10年国債利回り（%）	1.090	1.805	2.060	2.160	0.100	0.255	0.100

（注1）データは1/15現在

（注2）予想分配金利回りはQUICK算出

（出所）Bloomberg、QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成



図表4. 予想分配金利回り

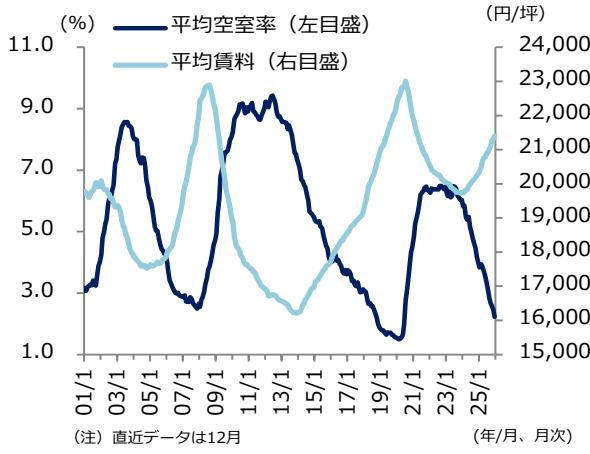


(注) データは1月15日まで

(注) 長期金利：新券10年国債利回り

(出所) QUICK, Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表5. 東京都心の空室率および賃料

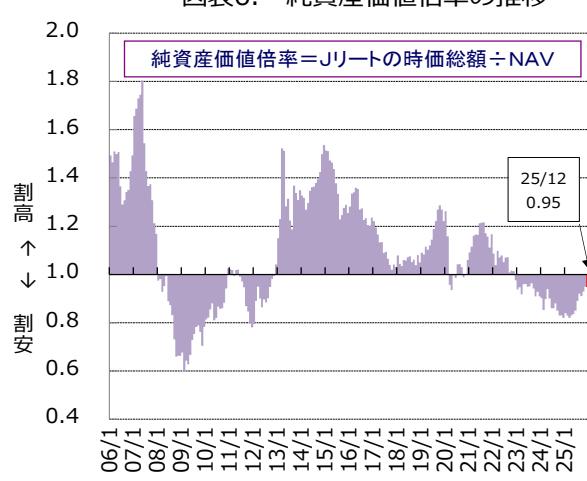


(注) 直近データは12月

(出所) 三鬼商事、Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

(倍)

図表6. 純資産価値倍率の推移

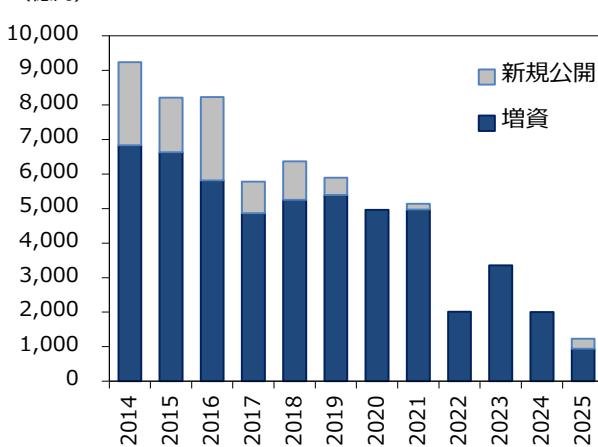


(注) 直近データは12月末

(注) 対象は上場不動産投信全銘柄、加重平均

(出所) QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表7. Jリートの資金調達額 (年度)

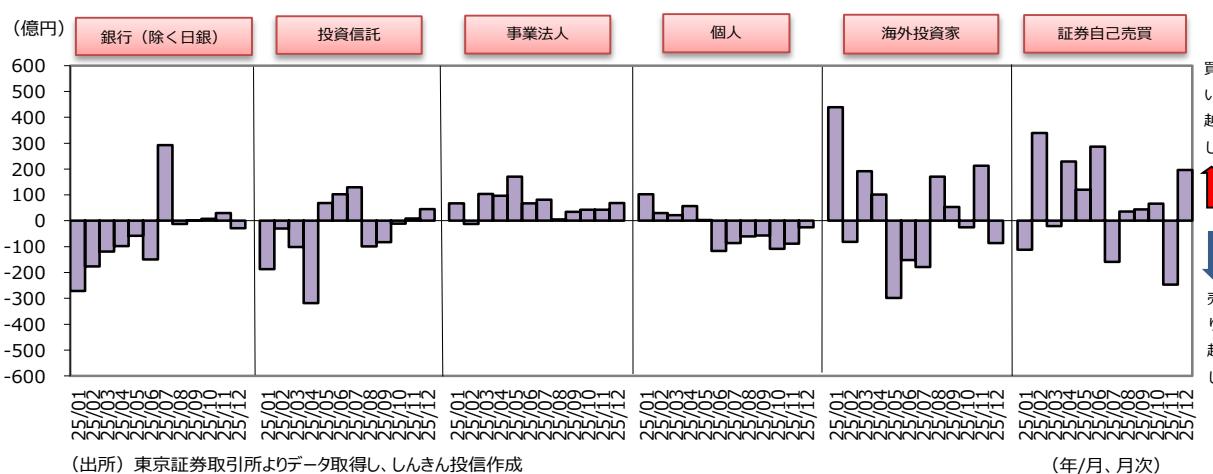


(注) 直近は予定を含む。対象は直近までの全上場銘柄。

受渡日ベース

(出所) QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表8. 投資部門別売買状況



※図表6: NAVとは、Jリートの純資産価値を意味し、Jリートの適正価値を図る指標のひとつです。投資法人の資産の時価評価額から、借入などの有利子負債やテナントからの敷金及び保証金などを差し引いて求めます。NAVは投資法人の純資産を時価評価したものであり、Jリートの解散価値とも言われます。NAVを投資口数で割ることにより、一口当たりNAVが求められ、投資口価格と比較することで投資法人の割高割安を比較することができます。



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものですので、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時に渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%（税抜 3.0%）
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

（保有期間に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%（税抜年率 1.48%）
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表示元に帰属します。